



平成 20 年 11 月 12 日

各 位

会 社 名 STEILAR C.K.M 株式会社
代 表 者 名 代表取締役 橋本 勝司
(コード番号 2673)
問 合 せ 先 取 締 役 加 藤 和 弘
電 話 03-5326-8880

特別損失の発生並びに平成 21 年 3 月期第 2 四半期累計期間および通期
(連結・個別)業績予想の修正に関するお知らせ

1. 平成 20 年 5 月 15 日付の「平成 20 年 3 月期 決算短信」において発表いたしました業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

第 2 四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正 (平成 20 年 4 月 1 日から平成 20 年 9 月 30 日まで)

(単位:百万円、%)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益
前 回 発 表 予 想 (A)	2, 6 6 2	3 2	2 0	1 7
今 回 修 正 予 想 (B)	2, 5 4 6	△ 8 5	△ 9 3	△ 1 5 2
増 減 額 (B - A)	△ 1 1 6	△ 1 1 7	△ 1 1 3	△ 1 6 9
増 減 率 (%)	△ 4. 4	—	—	—
前期実績(平成 20 年 3 月期中間期)	3, 7 2 2	2 0 5	2 1 7	1 1 9

通期連結業績予想数値の修正 (平成 20 年 4 月 1 日から平成 21 年 3 月 31 日まで)

(単位:百万円、%)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益
前 回 発 表 予 想 (A)	5, 6 3 6	2 1 4	1 9 0	1 8 4
今 回 修 正 予 想 (B)	4, 9 0 7	△ 1 5	△ 3 5	△ 1 3 1
増 減 額 (B - A)	△ 7 2 9	△ 2 2 9	△ 2 2 5	△ 3 1 5
増 減 率 (%)	△ 1 2. 9	—	—	—
前期実績(平成 20 年 3 月期)	6, 8 6 6	△ 8	3 2	△ 1 5 7

(注) 連結対象会社は、株式会社ホット・コミュニケーション(62.5%子会社)、株式会社アंकプロモーション(100%子会社)、株式会社S・Rプロモーション(100%子会社)、株式会社夢隊ファクトリー(100%子会社)、ライフステージ株式会社(100%子会社)、株式会社ソシオ(100%子会社)及び匿名組合1組合であります。

第2四半期累計期間個別業績予想数値の修正（平成20年4月1日から平成20年9月30日まで）

（単位：百万円、％）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想（A）	2,520	26	24	24
今回修正予想（B）	2,336	△70	△70	△134
増減額（B－A）	△184	△96	△94	△158
増減率（％）	△7.3	—	—	—
前期実績（平成20年3月期中間期）	3,521	228	233	216

通期個別業績予想数値の修正（平成20年4月1日から平成21年3月31日まで）

（単位：百万円、％）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想（A）	5,310	179	175	175
今回修正予想（B）	4,517	△35	△35	△127
増減額（B－A）	△793	△214	△210	△302
増減率（％）	△14.9	—	—	—
前期実績（平成20年3月期）	6,500	2	40	△66

修正の理由

- （1） 第2四半期累計期間個別業績予想の修正につきましては、通販小売事業において、期初より販売促進費の減少による利益率の上昇を図りました。利益体質への転換は徐々に進み、前年同期に比べ販売促進費のカットを実現したものの、第2四半期累計期間内においては当初の予想を達成するに十分な成果をあげるまでには至らず、また、売上高が当初の予想を下回ったことから営業利益、経常利益の減少となりました。当期純利益につきましては、上記の要因に加え、下記の特別損失を計上したことによるものであります。
- （2） 第2四半期連結累計期間通期業績予想の修正につきましては、前述のとおり通販小売事業の売上高、営業利益の減少及び下記の特別損失の計上が大きく影響していることが要因であります。
- （3） 通期連結・個別業績予想の修正につきましては、近時の金融市場の混乱や景気の後退感など、当初の予想とは異なる市場環境の急速な悪化を勘案し、今後の顧客需要の減退が見込まれるため、売上高、営業利益、経常利益及び当期純利益を下方に修正するものであります。

2. 特別損失の計上について

- （1） 平成21年3月期第2四半期連結会計期間において以下の48百万円の特別損失を計上いたします。主な内訳は以下のとおりです。

① 投資有価証券評価損 16百万円

当社が保有する投資有価証券のうち、主に投資信託の時価評価に伴う評価損であります。

② 投資損失引当金繰入額 23百万円

当社が保有する投資有価証券のうち取得価格に対して実質価額が著しく低下しているものの、回復可能性が長期に亘ると判断したものに対して、引当金の計上を行いました。

(2) 平成 21 年 3 月期第 3 四半期連結会計期間において特別損失として投資有価証券売却損 28 百万円を計上いたします。これは、当社が保有する投資有価証券について経済や市場の状況を考慮し、当社が保有する上場株式及び投資信託を売却したことによるものであります。

なお、通期個別連結業績予想数値の修正には当特別損失を含んでおります。

(注) 当社の第 3 四半期末は 12 月 31 日です

以上